

2020年9月29日

令和2年度第1回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和2年9月29日（月）14:00～16:58

開催場所：ZOOM 会議

出席者：後藤委員長，佐々木副委員長，田島幹事長，森，内山，荒木，高橋，北野，川崎，桑江，有川(以上各小委員長)，鈴木，安田，越村，遠藤，小竹(以上各副小委員長)，渡部，渡辺，原田，嶋原，太田，加藤，山城，高川，瀬戸口，片山，山本(代理：明田)(以上委員兼幹事)，小林，山中(委員)，林（土木学会）（敬称略・順 不同）

議事録：山中・田島

資料：

- ・ 令和2年度第1回海岸工学委員会幹事会議事次第(資料1)
- ・ PowerPoint 資料(資料2)

■議事録の確認

- ・ 前回委員会の議事録を確認した。

■海岸工学論文集第67巻発刊準備状況について（森編集小委員長，鈴木副小委員長）

- ・ コロナ禍の影響のため，例年のスケジュールから2週間ほど査読期間を延長した。
- ・ 登録論文数：306編，採択論文数：259編（内訳：通常237編，CEJ16編，SCI6編）
- ・ 海岸工学講演会オンライン発表数：207編（内訳：一般192，CEJ10編，SCI4編，通常号1）。
- ・ 辞退論文があり，辞退理由について説明があった。
- ・ J-Stage 作業について，組み版業者に論文フォーマットのチェックを依頼した結果，修正が必要な原稿は8編であった。J-Stage 公開は例年通りの11月初旬の見込みである。
- ・ 論文集の編集に関する現状・検討課題については，次の報告があった。組み版廃止により生じた最終版 PDF の様々な揺らぎは少なくなった。題目・著者変更のルールについて問い合わせが多く，Web の FAQ に記載しているので参考にして欲しい。
- ・ Corresponding Author の追加は次年度から実施する（申し送り事項とする）。
- ・ 最終判定の明確化。カテゴリー分けについて説明があった。C の再査読は D 判定の可能性のあるものとして判定する。判定書には，クリアすべき項目，対応できない場合は D 判定の可能性のあることを明記する。判断が難しい場合(完成度，新規性の判断など)は，cec による個別判断を行うので，問い合わせで欲しいとのアナウンスがなされた。また，投稿要項に採否基準が示されていることも再確認された。
- ・ 著者負担金について，今年度はオンライン講演会となり会場費が不要となるため，例年の負担金を減額し，特集号執筆者を2.5万円程度，その他の講演会発表者を1.5万円程度として検討することが提案され了承された。

■海岸工学論文賞および論文奨励賞の候補について（田島）

- ・ 審査方法の確認の後，審査結果の説明があり，論文賞および奨励賞3編ずつの候補が決定した。
- ・ 講演会前に受賞論文を発表することについて提案があった。これを受けて，受賞者の承認を講演会当日の委員会よりも前にメール審議にて実施することを幹事会として委員会に提案することとした。

- ・ 上記のメール審議での受賞論文の承認を、委員会に提案してメール審議し、承認されれば今年度から実施することとした。→メール審議にて承認された(幹事会后)。

■第 67 回海岸工学講演会(オンライン)の準備状況について (田島、荒木)

- ・ 実行メンバーは広報出版小委員会と幹事長が担当する。
- ・ 日程：2020 年 11 月 10 日 (火)～13 日 (金)
会場：Zoom で 3 会場，4 日間：各セッション発表 4 編
セッション間の休みは 20 分と長めに設定した。
懇親会：なし
- ・ 講演プログラムはすでに公開済みである。参加は事前申し込み制とする。土木学会のイベント申し込みのサイトを使用する。メールで案内を送付する。
- ・ Zoom 会議の運用方法について説明があった。聴講者のビデオ・音声オフは業者に委託する。録画発表，Youtube によるライブ配信も許可する。質疑応答は Zoom のチャット機能を用いる。休憩時間中 (セッション終了から 10 分間程度) まで，質問を受け付ける。開会式，閉会式，表彰式は行わず，pdf 文書として電子配布する。録画，録音は禁止する旨をアナウンスする。Zoom Webinar の利用も検討する。
- ・ 委員長より参加者数の増加に努めるよう依頼があった。

■第 68 回海岸工学講演会について (小林，北野)

- ・ 日時：2021 年 11 月 10 日 (水)～12 日 (金)
会場：岐阜県 (じゅうろくプラザ，岐阜大学サテライトキャンパス)
実行委員会：水谷 (名大)，委員 (東海地方の教員)
- ・ 前日シンポ，講演会会場はじゅうろくプラザに集約する。委員会はじゅうろくプラザを中心にサテライトキャンパスも使用する予定。昼食時の委員会はサテライトキャンパスを使用する。
- ・ 見学会：名古屋港コース，長良川河口堰コース (今後要検討)
- ・ 懇親会：2021 年 11 月 11 日 (木) 18:30-20:30，岐阜ワシントンホテルプラザスカイルームを予定。(今後要検討)
- ・ 現地開催の可否については，今後の情勢を参考に適宜検討を行う。
- ・ 第 69 回は関東での開催で検討中，第 70 回は京都で APAC2023 と同時開催する。
- ・ 仮に 2021 年の岐阜での開催ができなくなった場合にも，さらなる繰越しはせず 2022 年 (69 回)は関東で実施することを確認した。

■第 56 回水工学に関する夏期研修会 (B コース) について (山中)

- ・ 日程：2021 年 8 月下旬～9 月上旬
- ・ 会場：高知大学朝倉キャンパス (もしくはオンライン開催)
- ・ 延期扱いのため，2020 年度に予定されていた講師から変更することなく実施する計画であることが報告された。会場は変更の予定。
- ・ 2022 年度開催地については，継続審議とする。海岸工学委員会が主担当となる。

■Coastal Engineering Journal について (内山)

- ・ 新体制に移行後も，安定して運営できているとの報告があった。
- ・ 2019 年度の IF は 2.032。CEJ の文献を積極的に Citation するよう依頼があった。
- ・ 2020 年度の出版状況について報告がなされた。2020 年度は現時点で 91 編，欧米から

の投稿が減少、アジアからは増加、日本からは 21 編である。

- ・ 組み版の誤植について、状況の共有が行われた。最終版の作成に際し問題があれば、小委員会に連絡して欲しいとの依頼がなされた。
- ・ Special Issue について、Coastal Blue Carbon and Green Infrastructure と Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones について投稿数などの報告があった。

■常設小委員会報告（広報・出版、沿岸域連携）

- ・ 広報出版小委員会（荒木）からは、Web 情報の充実化と講演会の紙のプログラムについて報告と提案がなされ、プログラムのレイアウト変更案について了承された。
- ・ 沿岸域連携推進小委員会（川崎）からは、活動状況と今後の委員会のスリム化の検討について報告がなされた。

■研究小委員会の活動について

- ・ 以下の各小委員会・研究会からの活動報告書については事前回覧し、確認を行なった。
- ・ 津波作用に関する研究レビュー及び活用小委員会からは、津波ハッカソンの実施、ポータルサイトの構築、企画セッション、前日シンポジウム、論文投稿に関する報告があった。
- ・ 地盤材料小委員会からは、前日シンポジウムと土木学会での書籍出版を申請することに関して報告があった。
- ・ 減災アセスメント小委員会からは、活動報告があり、委員会の活動期間については報告書が仕上がるまで委員会を閉じる必要はないとの確認がなされた。
- ・ 気候変動小委員会からは、報告書の掲載、論文執筆について報告がなされた。

■その他

- ・ 令和 2 年度の委員会予算（田島）
予算計画について報告があり、有効活用方法について執行部を中心に検討し、同時に提案も受け付けることとなった（メールで案内予定）。
- ・ 海岸工学講演会・特集号の今後に関する戦略 TF について（佐々木、原田）
第一回会議が 8 月 3 日に実施され、その結果を受け次の提案が出された。
 - 要旨査読の採択により、講演会での発表が決定する（要旨を通過したものは全て講演を義務付ける）。
 - 要旨が採択され、講演会で発表する場合でも本論文を投稿しないことを選択できるオプションを新たに設ける（CEJ やその他の SCI ジャーナルに採択された論文、これから投稿する論文を発表する場合もこのオプションを使う）。
 - 上記により、CEJ に投稿して発表をするインセンティブが他の SCI ジャーナルと同等になってしまうため、新たなインセンティブを付与する手段を今後検討する。審議の結果、提案は了承され、下記については継続して検討することとなった。
 - システム改修の必要性と対応方法
 - 要旨原稿への著者名の記載の有無
 - CEJ へのインセンティブの内容（招待講演扱いにする等）また、他学会（地震工学、水環境学会）の取り組みの調査報告があった。

以上